

1. D子さんの現在の生活機能（心身の状況及び生活状況）はどうなっているのでしょうか。

(1) 病気の影響や、飲んでいる薬の副作用について考えてみましょう。

ネガティブな部分	ポジティブな部分
<p>【アルツハイマー型認知症】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意志疎通困難、会話がうまくいかない。 ・不穏・興奮・暴言がある。 <p>【薬の副作用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・抗精神薬の影響でボーっとしていることが多く、歩行可能なのに自宅に閉じこもりがちである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・かかりつけ医に相談できる。 ・血圧が正常範囲内で安定している。 ・薬をきちんと服薬できている。

(2) 身体的痛み、便秘・不眠・空腹などの不調による影響を考えてみましょう。

ネガティブな部分	ポジティブな部分
<ul style="list-style-type: none"> ・階段の昇り降りは、両手で壁を支えながら昇り降りをしている。 ・食欲がおちていて、体重が少し減っている。 ・便秘がある。 ・尿便失禁がある。 ・入れ歯 	<ul style="list-style-type: none"> ・睡眠は、とれている。 ・体の痛みの訴えはない。 ・箸で食事がとれている。

(3) 悲しみ・怒り・寂しさなどの精神的苦痛や性格等の心理的背景による影響を考えてみましょう。

ネガティブな部分	ポジティブな部分
<ul style="list-style-type: none"> ・夫の姿が見えなくなると不安で騒いでしまう。 ・排泄の失敗はとても恥ずかしいこと（精神的な意味で）それによって失敗すると興奮傾向となりやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的でお客さんがいるとニコッとする。 ・「お父さん」をいつも連語している。夫を見つけると幼子のように頭をくっつける。 ・夫との関係性よい。 ・回想法で、好きな絵を見ると穏やかになる。

(4) 家族や援助者など、周囲の人の関わり方や態度による影響を考えてみましょう。

ネガティブな部分	ポジティブな部分
<ul style="list-style-type: none"> ・娘は仕事があり、時々しか本人宅に行けない。 ・夫の姿が見えないと不安になり、不穏・興奮・暴言の症状がでる。 ・夫を頼りにしているが、失禁したときに責められると興奮し暴言が出る。 ・夫のサポートが少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・夫婦で苦楽を共にしてきた。 ・本人は、夫が見つかる则ち安心して幼子のように頭をくっつける。 ・夫は、施設に入所させることは全く考えておらず、『自分の体が続く限り自宅で介護したい』と考えている。 ・デイケアのスタッフが回想法を行うことで興奮状態が落ち着いてきた。

(5) 住まい・器具・物品等の物的環境により生じる居心地の悪さや影響について考えてみましょう。	
ネガティブな部分	ポジティブな部分
<ul style="list-style-type: none"> ・2階までの階段は、真直ぐで急な階段である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1階は夫が働く店舗、2階が住居になっているため、いつでも夫や常連客に会える。 ・本人の好きな絵画、家族写真が身近にある。
(6) 要望・障害程度・能力の発揮とアクティビティ（活動）とのズレについて考えてみましょう。	
ネガティブな部分	ポジティブな部分
<ul style="list-style-type: none"> ・急な階段は両手で支えが必要。 ・会話がうまく伝わらない。 ・食事の支度ができない。 ・買い物には1人で行けない。 ・お金の計算ができない。(釣銭を間違える) ・掃除洗濯ができない。 ・薬の管理はできない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手は使えている。 ・歩行は可能。 ・服薬はできている。 ・認知症デイサービスやデイケアに通っている。回想法で、旅行の思い出を思い出している。 ・認知症デイサービス、デイケアを利用しており、認知機能や下肢筋力が低下しないようなケアを受けている。 <p>(※D子さんは、認知症デイサービス、デイケアの両サービスを利用していますが、D子さんの状況ではどちらかひとつのサービスを集中して利用する場合があります。本人のニーズに応じて様々なサービス利用方法があります。)</p>
(7) 生活歴・習慣・なじみのある暮らし方と、現状とのズレについて考えてみましょう。	
ネガティブな部分	ポジティブな部分
<ul style="list-style-type: none"> ・これまで行ってきた家事などはできない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・住み慣れた住居で、夫の介護を受けながら暮らしている。 ・常連客と交流を続けている。 ・以前は、夫婦で海外旅行に何度も行き、絵画を買ってきて部屋中に大小様々な絵画が家族写真と一緒に飾ってある。 ・絵が好きである。
2. D子さん及び家族の望む暮らしはどのようなものでしょう。	
D子さん（本人）が望む暮らし	家族が望む暮らし
<ul style="list-style-type: none"> ・住み慣れた住居で、夫と2人で過ごす。 	<p>(夫) 自分の体が続く限り、妻と一緒に過ごし、介護を続けていきたい。</p> <p>(娘) 時々しか手伝わないので心配であるが、出来る限り夫婦で過ごせるようにサポートしていきたい。</p>

3. ニーズ（課題）を導き出してみましょう。

- ①不穏、興奮、暴言があり、夫等周囲の人とかかわりが疎遠となりがちであるが、薬を飲むと日中何もせずに過ごすことになってしまう。
- ②本来、社交的で旅行や絵画などの趣味を持っていたが、自宅に閉じこもりがちである。
- ③食欲の低下、便秘により心身の状況が悪化し、BPSDにも影響している。
- ④夫の介護疲れが予測される。

4. ニーズ毎に目標を設定してみましょう。

- ①行動障害が少しでも落ち着き、夫や家族、店に来た人と笑顔で交流ができる。
- ②以前の習慣や暮らし方につながる機会をつくる。
- ③便秘の解消など健康を維持し、BPSDを予防する。
- ④夫の介護負担の軽減を図る。

5. 本人及び家族のできること、多職種間の役割分担を考えてみましょう。

名前 (専門職名)	現在できること・現在のかかわり	今後できること・今後のかかわり (これから期待される専門職の役割)
D子さん (本人)	(セルフケアの概念) ・1階の店に降りてきて、お客さんと接する。 ・今できているADL機能を保持する。 ・健康状態の維持 ・デイサービス、デイケアの継続	・1階の店に降りてきて、お客さんと接する。 ・今できているADL機能を保持する。 ・健康状態の維持（食事をおいしく食べて眠れる。便秘を予防できる） ・デイサービス、デイケア（リハビリ）の継続
夫	・健康状態の維持	・健康状態を維持し、介護サービスを活用して妻の介護を続ける。
娘	・父親の介護サポートの継続	・介護サービスを導入して無理なく、介護サポートを継続できる。 ・成年後見人になる。 ・終末期（看取り）への準備
介護支援専門員	・定期的な訪問、サービス計画の作成、評価、介護サービスの調整	・夫の介護負担の軽減にむけてサービスの調整、小規模多機能型の導入を検討。 ・不穏・興奮の原因を把握する。
かかりつけ医	・診察、治療（服薬処方） (体重減少、便秘について)	・診察、治療の継続（興奮、暴言などが強く続くようであれば認知症専門医へ紹介、服薬調整） ・今後の病状進行、予後について家族への説明

介護職	・デイサービスでの生活支援（回想法の実施）	・回想法での評価をふまえて、アートセラピーの導入
作業療法士（OT）	・デイサービスでの作業療法（回想法の実施）	・趣味の絵画鑑賞につながるようアートセラピーの実施
理学療法士（PT）	・デイケアでのADL機能評価、維持のための訓練	・デイケアでのADL機能評価、維持のための訓練 ・転倒予防の指導、訓練
薬剤師		・抗精神薬の副作用を軽減できるような服薬方法の検討、助言
看護職（デイサービス、受診時、行政）	・デイサービス、医療機関受診時の体調管理、便秘への対応、助言	・デイサービス、医療機関受診時の体調管理、便秘への対応、助言 ・家族への健康管理
歯科医師		・入れ歯の調節 ・摂食嚥下状態の確認、機能が維持できるように定期的な受診、口腔状態の管理
栄養士・管理栄養士		・栄養状態の確認、便秘予防の食事療法の提示 ・配食サービスの利用提案
ヘルパー		・買い物援助を通じ、外出を支援する。（運動不足の解消）
弁護士		・成年後見制度の利用支援